

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常の中で近所への散歩や買い物等、地域の中で密接に関わる暮らしは生活の中で自然に取り込まれている。そして、全職員も当然のことと理解し合い、地域密着サービスを反映させている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送りが終わると職員全員で元気に理念を読み上げ、一日のスタートとしている。また、職員全員が理念の印刷物を持っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を印刷した封筒を作り、家族や地域への郵便物などで活用、施設内にも誰が見てもわかるように大きな字で簡略化したものを掲示している。また、看板にも電話番号を入れている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の方々が自分達で作った野菜を持ってきてくれたり、昔話を聞かせてくれたり、気軽に立ち寄ってくれている。施設で行事がある時は、お赤飯などを多めに作り、入居者と一緒に近所へおすそわけすることもある。施設の畑も手伝ってくれたり、町内の婦人部、ボランティア（歌、踊り）なども時々訪れる。現在はまだだがキャラバンメイト研修を受け、今後の地域に対しての認知症の理解を得る事につなげる為努力している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日の申し送りや、月一回の職員会議などで改善点をみんなで話し合っている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議では、出席者からの意見や報告があり参考にしている。また、職員全体にも会議や議事録で浸透させ、入居者へのサービス向上に努めている。消防署の防火に対しての研修も入れている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも、社協、役場保健福祉課などへ行き、近況報告など情報交換を行っている。施設の実態を本当に理解してもらえるよう働きかけている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在2名の入居者が権利擁護を利用している。また、研修にも参加し、全体会議時に報告、質問等を受け、職員全員が学べるようにしている。成年後見人制度において町包括と話し合い申請中。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを作成し、マニュアルをもとに内部研修を定期的に行っている。現在、虐待等は発見することもない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族との面接にて生活歴などを聞き、入居時にも契約書、重要事項説明書にて十分な説明をし、家族との信頼関係が保てるようにしている。改正時には承諾書にて対応している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、職員に気軽に何でも相談できる関係づくりができています。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一度、職員が手書きで近況報告を郵送している。その際、写真も同封している。また、何らかの変化時には、管理者、主任から電話での報告を行っている。金銭管理も月一度報告し、又高額の物品購入前には家族と相談にて対応している。(ベッド柵製作等)	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時などに家族と必ず会話をもち、意見などを聞き、入居者へのサービス向上に活かしている。現在までに意見箱には入っていないが家族からの意見は職員に直接寄せられている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議にて意見や提案を出している。また、それ以外でも常に話し合える場面を作り、反映させ、職員一人一人の志気の向上に努めている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時には、休みの職員に連絡し、出勤できる体制ができています。また、職員1名(取締役)の出勤での調整を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設は2ユニットからなっており、どの職員もユニット間を毎日行き来し、入居者への朝、夕の挨拶や、一緒に食事を摂ったりなど、顔馴染みの関係である。職員の入れ替えは半年か一年に一度行っている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画を作成し、定期的に職員間で勉強会を行っている。外部の研修にも代わり代わり参加させて、レポート提出と同時に会議時に発表。活用できると思われるものは、すぐとりいれている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町グループホームの運営推進会議の参加、又他県グループホーム職員の研修、見学も行っている。他グループホームとの待機者の状況報告も互い交流を図っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の変化を見ながら、悩みや不安などを個別に話し合える場を作っている。また、食事会など、現場から離れた場でざっくばらんな話をしながら、職員が息をぬけるような環境づくりを行っている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場での職員一人一人の仕事内容をよく見、ほめるべき時にはほめ、評価し、他職員へのやる気にもつながるような導きを心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの聞き取りの時間を十分に設け、家族が不安に思っていることなどを受けとめ、安心していただけるような話し合いをしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時、家族からの聞き取りと担当ケアマネからの聞き取りにて、入居者にとって最も良い支援ができるよう努めている。待機時もDS、SS、他のサービスの利用方法など進めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他人同士ではあるが、同じ屋根の下で暮らす仲間として、また家族として、笑い声の絶えない雰囲気の中で生活を送れるように心がけている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味付けや、漬け物の漬け方、また、掃除の仕方など、入居者の方に学ぶことはたくさんある。職員へ教えている時はとても楽しそうな表情であり、いつも一緒に作業している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者のその人らしさを私達職員がもっと知りたいと思う努力をしている。そして、できること、できないことを見極め、その人に合った支援をし、入居者の喜びとなるよう支えている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人希望時には施設から電話をし、家族と会話をもっている。また、月一度職員から状況報告の手紙と写真を郵送している。面会時には十分時間をとり、家族の気持ちを聞いている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中からの昔懐かしい思い出の場所や友人を探して、職員と出かけることもある。その人の大切なものを職員も同じようにあため大切にしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時間にみんなを呼びに行く人や、箸を配る人など、入居者間での役割ができています。また、お菓子の袋なども、破れない人は他入居者がお世話をして支え合っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調の変化にて入院した場合でも、仲の良かった入居者と職員とお見舞いに行き、やむを得ず退居した入居者にも時々電話や手紙などで連絡をとっている。又、退居者の状況に応じて他の施設入居の申し込みや手続きの手伝いも行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部（本人本位）をとりいれ、18人分のその人の気持ちをファイルしている。職員全員がいつでも見られるよう、また、書き足しできるようにしている。又、問題点はすぐに職員同士で話し合い対応している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活を大切に守りながら、引き続き家族から情報を収集し、安心の中で生活を送れるよう心がけている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝の声がけやバイタルチェックなどで、その日の気分や体調を把握しながら、状況に合わせて対応するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の中ではもちろんのこと、急変時にはその都度話し合いを行っている。訪問看護やケアマネなどあらゆる関係者からのアドバイスも反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一応六ヶ月の期間とし、変化のある方は三ヶ月、また入居者の状況に応じてその都度話し合い、新たな計画をたてている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	リネン交換ノートを作り、入居者と一緒に行う際の様子を記録している。介護員日誌にも状況がわかるように記入し、職員間での情報共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や外出など、突発的な入居者の要望にもできるだけ対応している。また、家族ともコミュニケーションを取り、思いを共有していけるよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の民生委員に推進会議に参加してもらい町内と連携し、警察にはパトロールの都度来園してもらっている。又夏祭りを開催し町内の方にも参加を呼びかけ、施設の事を理解して支援してもらっている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前にケアマネ等と話し合い、家族から施設の雰囲気馴染めるようにデイサービス、ショートステイをすすめ対応している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社協権利擁護を利用している。町に地域包括支援センターが始動、運営推進会議にも参加してもらっている。現在包括支援センターと共に入居者の成年後見人制度を申請中である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれにかかりつけ医があり、いつでも相談、受診できるようになっている。又状況に応じて記録し家族へ報告をしている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、数名の入居者が専門医で治療を受けている。また、問題があった場合には全入居者が相談を受けることができる。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週二回訪問看護にてバイタルチェックで健康管理を行っている。また、24時間いつでも対応可能となっている。又掛かりつけ医看護師からも医療的対応方法も聞く事ができる。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は担当Drとよく話し合い、また、家族ともこまめな状況報告をし、早期に退院できるような体制をとっている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の思いと家族の思いをよく理解し、その都度Drとも相談しながら、今後のあり方について、変化に対応しながら職員全員で確認し合っている。契約時に見取りの対応についての書類も家族へ渡している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いろいろな角度から、本人が安心して暮らせるよう職員で話し合い、可能な限り必要な体制（往診、訪看、福祉機器など）を整えている。また、状況に応じて特養等の入居申し込みの準備も行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の金銭は家族とも話し合って事務所で管理し、2名は社協の権利擁護を利用している。職員と一緒に買い物へ行き、自分の好きな物を選んでいる姿はとても生き生きしている。又お金を持っていると気持ちが落ち着く入居者には、家族と話し合いの上持たせている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日散歩へ出かけるのが日課である。又チラシを見てスーパーへ買い物へ行ったり、ドライブへ行ったり、その日によって決めている。季節に合わせたイベントへの参加も行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいところを聞いて可能な限り実現できるよう心がけている。家族と一緒に行くこともある。墓参りやお見舞い、友人の自宅などへも出かけている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に施設から使えるようにしている。また、手紙やハガキは職員がそばに付き添い見守っている。家族との連絡の為に携帯電話を持っている入居者もいる。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰が来ても迎え入れ、入居者と訪問者との大切な時間をゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。また、入居者がお茶やお菓子を出してくれる。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なぜ拘束することが悪いのか、根本的な部分で職員全員で話し合い、理解している。また、やむを得ず安全を考えるうえで行う際には、家族に連絡し、理解を得、署名、捺印で同意していただいている。拘束防止のマニュアルも作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はせず自由に入出りできるようにしている。帰宅願望時や、突然外へ出て歩き出す時は、職員も一緒に歩き、本人のその時の気持ちを第一に考え大切にしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は定時の見まわり、玄関にはセンサーを設置し、夜間は2時間おきの見まわりで対応し、安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等は介護員室で保管（夜間帯）、また、危険だと思われる物は施錠で保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事の際、姿勢の悪い入居者の方には窒息や誤嚥を防ぐよう、声がけにて安全な食事を摂っていただくようにしている。また、定期的に事故防止の研修をくり返し行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほぼ全職員、初級救急講習を受けている。また、事故発生時の連絡網は介護員室に掲示している。	○	救急講習を受け年数が経っている為、今後町内社協と合同にて受講する予定で調整中である。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練の実施（夜間、日中想定）、地域住民の方々にも日頃から協力を働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	それぞれの入居者に起こり得るリスク部分にも家族には正しく報告、説明している。そして、家族の望む、その人らしい生活のありかたも聞いたうえで抑圧のない支援ができるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや会話等で、変化のある時は早めに受診で対応している。また、週二回の訪問看護が来る際には、時間を設け、情報の共有、相談を常にしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を職員が理解し、入居者の「人間らしい生き方」が損なわれないよう、状態の変化には十分気をつけている。Drともその都度相談している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日バランスのよい食事を考え、メニューを作成、水分量も気をつけている。毎朝のラジオ体操、午後のレク体操と、軽い筋力トレーニングも行っている。また、便秘時はDrと相談にて内服で対応している。内服でダメだった方は訪問看護来園時に浣腸対応にて排便をうながす様にしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の入居者に合わせて対応し、できない方へは職員と一緒にそばで見守りながら行っている。夜間帯は義歯洗浄剤に入れ清潔保持に努めている。口腔内清拭で対応している入居者もいる。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者が好む食事を、栄養やバランスなどを考えてメニューを作成、旬の食材もとりいれている。また、病状に合わせた果物の摂取、食欲のない時の栄養摂取などもその都度対応している。必要時には水分量もチェックしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアル作成にて対応している。インフルエンザ等の流行時にはDrと相談、また、受診を控えたり、うがい、手洗い、マスク使用等で対応している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限の確認を毎日職員が行っている。また、まな板やふきん、その他の調理用具はハイター消毒等で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でも気軽に出入りできるよう玄関の施錠はしていない。また、玄関には、一般の家庭と同じように花を植えたり野菜畑があったりと、親しみやすい環境になっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	優しい音色のオルゴール曲を日中さりげなく流し、安心して囲まれ、ゆったり過ごせるようにしている。また、その時々々の行事などで様々な装飾をし、季節を感じてもらえるよう工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設ホールには大きめのソファや畳、廊下には椅子、玄関にも長椅子を置き、いつでも自由に過ごせるように配慮している。また、職員と一緒に仲間に入りおしゃべりすることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子やテレビ、タンス等、使 い慣れた物を持ち入れ、安心して生活が継続でき るよう配慮している。遺影、位牌を持参してくる 方もいる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	季節ごとに加湿器やエアコンを使用。また、居室 には換気扇がついている。天気の良い時は窓を開 け、できるだけ自然の風を取り入れている。Pト イレ使用者の居室には消臭剤を置いている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の入居者の状態に合わせて対応。必要な場合 には補助機器（手すり、車椅子、夜間のみPトイレ等） で対応。職員がしっかり見守りながら一人 でできることは行ってもらっている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室やトイレはわかりやすいプレートで表示して いる。時々自分の居場所等がわからなくなる場合 は、職員がそっと寄り添い、その人がわかるよ うなヒントを与えたりして、自分の力でわかるこ とを引き出している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	ホールや廊下はミニコンサートや運動会ができる スペースである。また、台所も、何人かの入居者 と常に楽しみながら作業できるような空間であ る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ここで暮らす方々は、私達と同じ「人間」です。かけがえのない過去を持ち、長い間、必死に生きてこられた尊敬すべき方々です。たまたま「認知症」というやっかいな病名がついただけの方々です。毎日の生活にはとても活気があります。生活の支援は、できることは入居者自身にやっています。私達は、本人の、まだまだできる、そして、生きようとする力を信じております。どんな状況でも入居者一人一人の思いや願いを、まず「わかろうとする心」、目に見えない一番大切な部分を職員全員がわかってあげようと努力することに、日々取り組んでおります。

ここで暮らす方々は、可能性をまだまだたくさん秘めています。毎日笑いながら「ここで暮らせて安心なんだ」と思っていただけよう努力してまいります。喜びも悲しみも入居者と共に感じながらゆったりした時間の中で生きていきたいと願っております。もう一つの本当の家族と信じながら……………。

理念に基づき心地よい家、家庭的という暮らしやすい施設を目指し、今後も職員一同頑張っていきたいと思っております。